

平成30年度 第2回志摩市子ども・子育て会議議事録

日時：平成30年11月30日（金）

午後5時30分～午後6時30分

事務局	開会あいさつ
福祉事務所長	三橋所長あいさつ 幼児教育無償化等について
事務局	米澤委員・濱田委員・前田（裕）委員・中村（智）委員の4名欠席。二村委員・関委員は遅れて参加と事前連絡あり（関委員は結果的に欠席）。委員18名のうち12名出席。参加者過半数以上の出席の確認により会の成立を報告。
会長	会長あいさつ 各委員の活発な発言を希望
事務局	第2期志摩市子ども・子育て支援事業計画の策定業務を委託する㈱ぎょうせいから3名、本日の会議に来ていただいています。詳細やわからないことがあったら説明していただきます。 配布資料の説明ですが、資料3と4が今回のニーズ調査案です。前回よりかなり枚数を減らしています。就学前児童用は28ページから18ページに、小学生は22ページから16ページに減らし、皆さんがページを見ただけで「回答は無理」となるように最低限のもので作りました。 担当職員2名が試験的にアンケート調査をしてみたところ、就学前が20分～30分、小学生が15分～20分と、減らしてもかなりの時間がかかります。内容の方は見ていただくと、資料送付時の説明にもあったと思いますが、資料3の就学前児童用は青字で印刷しているものは、事業計画書の53ページ～59ページにある見込み量の数値を出すために必要なため、削れないものとなっています。今回特に追加された部分として、資料3の6ページに、幼児教育の無償化に関するアンケートということで、無償化になったらどういう事業やサービスを使いたいかを聞く項目を設けています。 あとは、前回よりも見やすくということと、情勢も変わってきて内容を精査しページ数を減らしていますので、事前に送付して見ていただいて、追加する所、もっと削れるところ等ご意見いただければと思います。 資料3の1ページの間5の配偶関係について、前回までは配偶者（夫または妻）という所に、パートナーという言葉を追加しました。パートナーの定義として「婚姻関係にはないが、生計を一にしていって同居している方」としています。パートナーの注釈があったほうがいいのか、そもそもこのパートナーを追加しなくていいのかというようなご意見も聞かせていただければと考えています。皆様の正直なご意見をお聞かせください。以上です。
会長	資料3・4をアンケートとして考えている、資料1・2は前回のものでそれを短くしたということです。どうでしょうか、何かご意見ございますか。挙手してご発言を。国が指定するものが青で示してあり、入れないといけない。それ以外が市独自なので、意見の対象となるかと思います。誤解のないようにしないと、

回答する側はよくわかるという人もいれば、わかりづらいなあと思う方も必ずいるんですね。ですけども統計が出た時に、あいまいにつけたものと確信をもってつけたものでは全然違いますので、わかりやすい文章にさせていただくのは絶対的条件です。それから、つけやすいということがアンケートではすごく大事で、適当につけるとか放棄するとかということがあると、統計上信頼性を失いますので、そのために今、議論しているということです。

阪本委員

資料1・2はすごくボリュームがあるなと思いました。資料3・4はボリュームを減らしたとはいえ、まだかなり多いかなと正直思います。回答に骨が折れるのではと思いますが、青字の部分は絶対外せないということで、前回の子育て支援事業計画の調査に応じて作っていただいたのだと思いますが、もうすこし削れないかと単純に思います。例えば、問30・30-1・30-2は聞く必要があるのか、どういう意図なのか、少し疑問に思いました。親の個人的な思いでかなり変わってくると思います。

それと、6ページの幼稚園や幼稚園の預かり保育はわかりますが、認可保育所と認定こども園とその他の認可外の保育施設というのは、私はわかりません。若い親御さんが正確にわからないと、先ほど先生がおっしゃったように、正確に回答できるか心配になりました。普通の保育所はどれに該当するのか単純に疑問に思いました。

会長

保育園などずいぶん変わっていますから、理解しづらいと思います。今、ご質問にあったとおりだと思いますが、どなたもわかるような書き方というのはどうなんでしょうか。

事務局（濱口）

注釈をつけましょうか。

会長

注釈も結構ですが、もう少し本文で説明するとかわかりやすく。例えば保育園と幼稚園とどう違うのか、そうしないとなかなかわからない。どれだろうとなってしまう。ここをもう少し修正してみると、親子でどういう活動をされているか、コミュニケーションについての質問について、確かにどういう意図なのか検討していただける余地はありますか。

事務局（濱口）

はい。

中村委員

私もこれを読んでこれを全部きちんと理解しながら回答するのは時間がかかると思いましたが、この形で出すと決められたのはしかたないかと思いました。これを封筒に入れてポストに出しに行くというのがバタバタしているとハードルが高い感じがするので、今のお母さん方はパソコンしたりケイタイしたりしているので、そちらからもアンケートができる工夫をされてはどうかと思いました。

会長

投稿する手段ですね。

事務局（濱口）

それについては今回は難しいのかなと思いますが、次回に検討させていただきたいと思います。

中村委員

準備がいることと思いますが、それもひとつ考えてみられてはどうかと思います。

- 会長 確かにおっしゃるとおりです。
- 榎ぎょうせい 参考までに申し上げますと、静岡県のある市でウェブアンケートをやったところもありますが、それで返ってきたのは5件でした。やはり使いにくい。そういう環境がご自宅にないと答えられないので、今回の事例では数件という結果でした。
- 事務局（濱口） 国勢調査のようにウェブの環境が全体にあって、ウェブでやる人と直接出す人とのようにできればいいのですが、今はまだちょっと無理かなというのが感想です。
- 会長 5年後はまた環境が変わっているかもしれませんので。
- 大学でも科目登録はウェブを使ってやっています。入学する学生にはパソコンを持たせてとなっていますから、紙で書くということはしなくなってきましたので、おそらく5年後にはそういう環境も整うということと、環境が整わなくても手段がいっぱいあるということが大事なんですね。つまり、ペーパーでも出せる、パソコンでも回答できるということが大事で、どちらかというのではない。できるだけ多くの人に回答してもらうことが大事だということであれば、さまざまな手段を有効活用できるようにするが本来の姿だと思います。環境整備が整わないというのは理由にならず、5件でもあるなら、それがとてもいいことであるなら広げていくべきだと思います。その方向でこれから考えていく必要があると思います。
- 中川委員 他の委員の方どうでしょうか。
- 社協で児童クラブをさせていただいていますが、幼保の無償化になると各家庭において出ていくお金が減ると思うが、その分を児童クラブに移すという考えがないか聞くことはできるでしょうか。人数動向として、うちも増えてきたりしているので、ひょっとしたら幼保の負担が減るから児童クラブへ行かせようという流れが出るかもしれないので聞いていただけることができますか。
- 事務局（濱口） それと、細かいことですが、アンケートで分単位まで聞く必要があるのでしょうか。お答えいただければと思います。
- 事務局（濱口） 前回のアンケートで分単位まで聞いていることもあり、今回も合わせようというところもありました。それと、児童クラブについて、今は学校休業日は8時から18時までで運用しています。民間では18時半までやっているクラブもありますが、実際、8時からというのは厳しい、もうちょっと早くしてほしいという声も聞こえてくる中で、7時からか7時半からか実際の声が聞けたらなと思いました。時間単位にすると7時半からでよくても7時という回答しかなく、迎えについても18時半までにお迎えにいけるけれど、回答は19時までになってしまうので、お手数をお掛けするのですが、こちらは分単位までみたいというで設定させていただいています。
- 三橋所長 無償化と児童クラブの関連はどういう意味があるのでしょうか。
- 事務局（村田） 例えば、下の子が幼稚園児で上の子は小学校だとして、幼稚園で1万円分無償化で浮いた分を、今まで金銭的に行かせられてなかった上の子を児童クラブに

入れるということですね。そういう家庭があるかという質問ですかね。

中川委員 そういう想定です。実際無償化になってみないとわからないので、いろんなパターンがあるとして、一つの例です。

前田委員 質問ですが、児童クラブの利用にあたっては一律の単価なのか、分単位で利用料金が変わるのですか。

事務局（濱口） 児童クラブは決まった時間で運営していますので、時間単位で違うということはないです。幼稚園や保育所は預かりの時間でいくらかと決まっています。将来的に放課後児童クラブの利用時間の延長を考えた時に、延長ととらえるのか運営時間ととらえるのかで、分単位でお金をもらうのか、そもそも学校休業日の運営時間を例えば7時半～18時半として月額利用料1万円に含まれるのか、あるいは月いくらもらうのか考えるということになると思います。

会長 おそらくいろんな問題が起こってくると思います。単純に無償化したから解決するとは思えないのです。いずれにしても、子どもたちが放課後も安心して生活が送れるように配慮するのは子育て支援の中では大事なことですよね。お金のことも当然そうですが。

山川委員 アンケート調査に関して、1000人とありますが本当に無作為の1000人なのか。なにかバランスなど配慮されたのかなと思ひまして。

事務局（濱口） 本当に無作為の1000人です。未就学児と小学生の両方が重ならないようにという配慮はありますが、それぞれの1000人は無作為です。

山川委員 前回の回収率ですが、事業計画の20ページに載っているのですが、回収率がとても低いのではないかと思います。統計学にご専門の方が見たときにこれをどう判断するのかとずっと引っかかかっていて、このまま進めていいのだろうかとそこで思考が止まっているのですが、どういう受け止めだったのでしょうか。

事務局（濱口） 確かに前回の回収率は低いと感じており、前回がかなりボリュームあったので、今回のアンケートはできるだけ回答しやすいようにしました。

会長 基本的に6割超えないと信頼性はないですよ。おっしゃるとおり。他の市町を見ていても50%前後というところが多いです。60%超えたところもあったのですが、聞いてみるとすごく工夫されています。回答しやすくなっていたので、そこは業者の方たちの手腕になってくると思います。回答しやすいのは絶対的条件で、はっきり言って30%40%では低いですよ。広報活動もそうですが、このアンケートをなぜするかということを市民に理解してもらう努力は必要だと思います。ただ送り付けて「やっています」というだけではなくて、こういう趣旨でして、こういう形になっていくんですとわかりやすく伝える努力をしないと、ただ撒いてやるということはないです。若い人は忙しいから、これを受け取って「えーっ」となってしまいますので、6割はほしい。

山川委員 大事な声が届いた上での計画なので、1000人のアンケートで次につながるのかなと。

会長 それと他の市町でもあったが、今外国の方がすごく多い。そういう方たちも答えられるようにと、翻訳するところまでいかないんではないかとはいいましたが、か

なり外国人が多い市で、その方たちも保育園幼稚園を利用していますので、そういう方たちも答えられるようにこれからしていくと回収率も違っていくのかと思います。

さっき言った、5年たって状況が変わってきているというのは、そういった社会的変容というのもありますので、どなたでも答えられるようにしていくと違っていただろうなと思います。

まだご発言されていない他の方いかがですか。

伊坂委員

えがお志摩保育園の伊坂です。私がこれを見せていただいた時に、やはり前回よりはボリューム少なくなったとは思いました。私は私立の保育園ですが、やはりお母さんの活字離れで、手紙やたよりを出しても読んでもらえないことが多いので、絵を多くしたり工夫してますが、あとは一緒に考えたりしています。答えがある時は、「お母さんこれ参加する、しない？参加するよね、ではこちらに丸をして」というところまでしないとできない保護者も多いです。

私の保育園でこのアンケートができる保護者を考えた時に、あの保護者は無理かと思うと、一緒に考えてあげるといって「こんな来たけど先生どうしたらいい？」と来た時に、「こども家庭課さんに行ったら一緒に考えてくれるよ」と答えさせてもらっていいのか、と思うところもあります。

会長

おそらく意思はあるけど、なかなか行動に移れない方もいるので、こちらの方で多少時間を作っていただいて一緒に考えてあげるといのはどうかという提案ですが。

事務局（濱口）

来ていただけると嬉しいです。来る以前にあきらめてしまう方もいるので。

会長

では、園の方で、こども家庭課で詳しく教えてくださいと案内してもいいかもしれませんね。

事務局（濱口）

それで回収率が増えるのであれば。

三橋所長

チラシを作って園に貼ってもらってというのも可能ですね。

会長

いい案ですね。そうすると多少違いますね。他の方どうですか。

伊藤委員

浜島子育て支援センターの伊藤です。私は子育て支援センターなので未就園児の担当なのですが、やはりお母さん方は忙しいんですね。支援センターも毎月情報誌やたよりを出すけど、それすらも読む時間がないという印象を受けています。簡単にさくっとできるのがいいかなと思いますので、支援センターに何部か置いておいて、来られたお母さん方に一緒にやっていただいてもいいのかなと思いました。

会長

おっしゃるとおりですね。どうですか？

事務局（濱口）

いいですね。

事務局（村田）

匿名性さえ気にされなかったらいいと思います。封筒にいれて提出いただいたら、シャッフルされるので最終的には誰かわからなくなりますが。了解していただいたらいいと思います。

三橋所長

1000人以上にそれをするということですね。

事務局（村田）

集計するのに問題はないでしょうか。

榑ぎょうせい 対象が合致していれば一向にかまいません。
 会長 他はどうでしょうか。
 阪本委員 参考までに教えてください。１０００人というのは、全体の児童数に対して何%ぐらいでしょうか。元の母数をつかみで結構ですので。確実に反映させるためには何%以上とか統計上あると思うのですが。
 三橋所長 前回の会議の資料ですが、児童数が小学校で１９６０、中学校で１２２２ですから、小学校で約２０００とし、未就学は６年間ですから小学生とほぼ同数弱として２０００とすると、１０００は約５０%です。
 阪本委員 全員に送ってもいいぐらい少ないですね。
 会長 対象がそうだとすると回答率がぐっと低くなるわけだから、そんなに誇れることではないですよ。もっともっと回答率を上げていかなければ、３０%４０%では信頼性が低いですから。さきほどから言っているような方法で努力することが重要ですね。他どうですか。
 中村委員 これ回答するのにこれぐらい時間がかかりますよという目安があった方がいいのかなと思いました。答えている途中で、まだかかるのかな、まだかかるのかなとなってしまうので、だいたいこれぐらいで終わるという目安があったらどうかなと思いました。
 あと、「子育て支援に関するニーズ調査」のニーズについて言葉の持つ意味合いというのがまだ浸透していない気がするので、なにかもう少し親しみやすい言葉に変えられるなら変えたほうが、アンケートに少しでも気持ちが向くかなあと。
 会長 確かにそうですね。
 三橋所長 もっとやわらかい言葉で、例えば、あなたの回答が〇〇にいかされますとか、やる気を起こしてもらえるような。
 会長 「ご記入にあたって」というところに今言ったような言葉を書いたらどうですか。もうちょっとわかりやすく、そうするとこのアンケートはこういうことだになってわかっていいと思うのです。ひとつ気になるのは、これを職員の方が回答したとおっしゃっていましたが、何人かの子育てしている方にプレテストでやってもらうとかした方は実質的にわかりやすい。職員はわかっているから当たり前なんです。僕らもアンケートするときは対象の何人かにプレテストをやってもらい、どこが回答しづらいか、意味がわからないかを探りあてて手直しますのですね。もうアンケートは出来ているのでちょっと協力してってやった方がいいと思います。
 就学前についてはこれでよろしいですか。
 田畑課長 すみません、２ページの間８で気軽に相談できる人はいますか、場所はありますかの回答選択肢が、「１．いる／ある」「２．いない／ない」といっぺんに回答するようになっていますが、相談できる人はいるが場所はないなどそれぞれ回答が違う場合の回答のしようがないのではないのでしょうか。
 会長 確かにそうですね。

榑ぎょうせい
 事務局（村田）
 会長

分けます。
 人と場所の回答をわけるとのことですよね。
 それでは、これでよろしいでしょうか。またご意見ある方は直接お話になってください。それでは、もう一つの小学生児童用をご覧ください。お気づきの点があればお話しください。青字がないということはすべて任意ですね。志摩市独自のものはないのでですか。

事務局（濱口）

これが全てそうというか、就学前は必須ですが、そもそも小学生はやるかどうか任意の中で、志摩市は小学生世帯の意見も聞きましょうということでこれになっています。

会長

放課後児童クラブのことなどは、連携して大事なことからデータとしてはほしいのではないですか。

阪本委員

就学前と一緒にですが、14ページ問24はなぜ聞かないといけないか僕はわからないです。習い事にかかる1ヶ月の費用の平均も、習い事によっても違うし、いろんな要素が入ってくると思います。お金があるからいろいろやらせようとか、お金関係なくこれをやらせたいとか、必要な質問ならいいのですが、個人的にそう思いました。

事務局（濱口）

私もこのお金の部分に関しては、ぎょうせいさんになぜこの質問があるのか聞きました。こちらとしては、放課後児童クラブに行きながら習い事をしている人もいるので、どちらかといえば何件くらい何日くらい習い事をしているかというのは知りたいとは話したのです。そしたら、今子どもの貧困という問題が言われている中で、どれくらい塾にお金が入られるのかというところで貧困を探る部分もあると言われましたので。

会長

ちょっと違うかな。

事務局（村田）

二極化ですかね。お金のある家はたくさん習い事させて、一方で小学校行ってるだけで習い事なしという家庭もあるということかなと。そこを探る意図があるのだと思います。

会長

お金のかけ方が違うのでしょうか。

事務局（村田）

ボリュームを減らすためには特になくてもいい部分ですけど。

阪本委員

音楽とか習わせたら途方もないお金がかかりますでしょ。ものによって全然違う。

会長

ちょっと検討してください。

中川委員

付随して、6ページの問13の2で、この項目の中に利用料金の設定の満足度を入れてもいいですね。またご検討いただければと思います。

会長

そうですね。他ご意見いかがですか。

事務局（村田）

ちなみに伺いたいのですが、このアンケート年末に送られてお正月休みに回答するほうがよいか、年明け1月半ばに送られてきて答えるのと、どちらが答えやすいですか。お正月は忙しくてそれどころではないですか。

山本委員

お正月は子どもは休みやけど、保護者は忙しいのではないのでしょうか。

竹内委員

これ今日やってみました、30分～40分ぐらいかかりました。

阪本委員

送られてくるのは年内でも、回答を延ばしたらいいのでは。というのは、家族が集まる機会がひとつのチャンスになりうるので、こんなのを送られてきたけどどうかなと、親子三代で意見を交換し考えをまとめて答えることもできるのかなと思いました。年末に送って年明けに回答するのもいいのじゃないかと思いました。

会長

ただ、回答期間が長いと逆に回収率が悪くなるので、ある程度のところで締め切った方がいいですね。それも検討してもらおうということで、よろしくお願いします。

アンケートについてはだいたい意見は出尽くしたと感じています。内容的にはこれでお願いしますが、いくつか検討していただいて、変更あったところをご連絡ください。また、持ち帰られまして何かありましたら個々に担当までご連絡ください。事務局からアンケートについて何か連絡ありますか。

事務局（濱口）

先生おっしゃっていただいたように、調整させていただきましてこういう形になりましたというふうにお知らせさせていただいて、申し訳ないのですが、その時点で発送になるということでご了解いただけたらと思います。

会長

委員の方それでよろしいですね。では2番目のその他について何かありますか。

事務局（濱口）

その他については特にありませんが、このアンケートを集計して最終の3回目の会議になります。アンケートいつ発送するかによりますが、集計もぎょうせいさんにがんばっていただいて、3月の頭には予定をしたいなと思っております。さきほど発送時期について議論していただいたのですが、逆算すると12月中には発送が必要な面もあるのですが、調整しながらやっていって、できれば3月の頭ぐらいに最後の第3回会議をさせていただいて、集計結果速報をお示したいと考えていますので、ご予定をよろしくお願いします。

会長

本日の議事は終了しましたので、事務局にお返しします。

事務局（濱口）

本日は、アンケートについてご検討いただきましたので、終了させていただきます。次回、3月もお忙しいとは思いますがよろしくお願いします。本日はありがとうございました。